

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300324		
法人名	医療法人 医和基会		
事業所名	グループホーム 金刀比羅 (2階・3階・4階)		
所在地	〒804-0022 福岡県北九州市戸畑区金比羅町4番29号 Tel 093-873-8731		
自己評価作成日	令和03年02月20日	評価結果確定日	令和03年04月05日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を念頭にたくさんある想いをひとつずつ形にすることが大切だと思っています。その瞬間の表情や仕草を見逃さないよう日々取り組んでいます。医療法人が母体である為、医療に強いグループホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和03年03月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北九州市民のオアシスとして親しまれている金比羅池に隣接して、定員27名のグループホーム「金刀比羅」がある。看護師を配置し、MCS(メディカルケアステーション)を導入することで利用者の詳細な情報を母体医療機関や隣接する診療所と共有することが可能となり、より安心の医療体制が整い、看取りも行っている。今年度は、コロナ禍の下、外出や外部との交流を控えてきたが、四季折々の行事や誕生会、近隣への散歩等、利用者の笑顔のために職員がアイデアを出し合い取り組んでいる。楽しく仕事ができる環境を目指して、職員の処遇改善と職員確保に取り組み、少しずつ職員数も増えつつある。面会制限の為、利用者に会えない家族の不安な気持ちに寄り添い、小まめな報告と迅速な対応で家族の安心に繋げ、優しい職員の真心のこもった温かい対応に、家族から多くの感謝と信頼が寄せられている、グループホーム「金刀比羅」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各所に理念を掲示し、念頭に置きながら介護にあたっている。理念に沿った介護や業務が実践できているかをその都度振り返りながら、職員間で意識を高めている。理念を意識した業務実施を心掛けている。	ホーム独自の理念、『ぬくもりを胸に・めぐり逢いはいつも傍にある・その瞬間を心に刻もう』を見やすい場所に掲示している。職員は、理念を意識しながら、温かな気持ちで利用者に寄り添い、たくさんある想いを一つずつ形にしていけるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染拡大予防の為、個室により予約制の面会にて家族とのつながりは持たせたが、季節の行事を各フロアのみで行うことが出来なかった。	利用者と散歩に出かけた時には、そこで出会った人と挨拶を交わす等、コミュニケーションに努めている。また、コロナ以前は、隣接の施設で行われる行事に参加し、交流していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ミーティング等にて、入居者の個別の対応、問題点を意見交換し、ご家族、医師を交え、スタッフ間の認知症に介護について知識を共有できるように行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大予防の為、内部開催のみで行い、行事等、写真にて議事録と一緒に郵送して日々の生活状況の報告を行っている。開催の手紙にて要望、質問等をうかがったが回答なく、電話等にて状況を伝えている。	コロナ対策以前は、運営推進会議に利用者や家族、地域包括支援センター職員、ホーム職員が参加して、2ヶ月毎に開催していたが、現在は書面で報告している。活動、ヒヤリハット、事故等の報告を行い、勉強会も実施している。出された質問や意見をサービスの向上に活かしている。	外部からの参加が少ないので、コロナ収束後には参加者の増員を図る事と、近隣の事業所と合同での開催や管理者が相互に参加する等、会議の活性化を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大予防に努めている為、電話にての報告相談を行った。	管理者は行政担当窓口へ、空き情報や事故等の報告を行い、疑問点や困難事例があればその都度相談し、情報交換しながら連携を図っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があったが、現在はコロナ禍の為、書面での報告を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会をプリントにて開催し、アンケート形式にて、意識共有を行い身体拘束のない介護に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を中心に、今年度は密を避けてアンケート形式で研修を行い、その結果を受けてマニュアルを再検討して周知を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、プリントにて研修アンケートを行って相手の気持ちに寄り添えるよう、共有できるようにアンケート集計結果等にて予防注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	金銭管理の権利擁護を入居者の方で利用されておられる方もおられ、毎月権利擁護の方と日々の生活状況等報告相談を行った。	制度を活用している利用者があるので、業務を通して制度についての理解を深めている。必要時には、制度に関する資料を基に、利用者や家族に対して内容の説明や申請方法を分かり易く説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時、時間をもちその都度、疑問・質問に答え安心して頂いています。また、その都度、電話等で説明、疑問への理解を持っていただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議開催案内の手紙にて、意見を頂くように努めている。新型コロナウイルス感染拡大予防の為、電話にてその都度、意見を頂いている。	コロナ禍以前は、面会時や運営推進会議、ホーム行事に家族が参加する時に意見や要望を聞き取っていたが、面会等の制限がある現在は、小まめに電話で連絡、報告を行う中で聴いている。出された意見は出来るだけホーム運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等にて、業務の改善や方法を検討しながら実施している。	月1回、各フロアでミーティングを開催している。管理者は、意見や提案等を出しやすい雰囲気作りを心掛け、職員間で話し合う機会を多く設け、意見や提案等を反映させている。出来るだけ多くの職員が参加できる日時にミーティングを行い、情報の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の得意な事を活かせるよう努力している。法人からは、永年勤続者への報奨金の支給・資格手当支給され配慮している。また、賞与の際、人事考課表を持ちて評価を行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	入職時、面談を通じ本人のやりがいや気持ちを大切にし雇用にも努めている。自己啓発に努められるよう、休みの希望や研修の希望をうかがって出来る限り要望通りに出来るようシフト調整等を行っている。	職員の休憩時間や希望休、有休の確保等、勤務体制に配慮し、職員が生き生きと働ける職場環境を目指している。また、職員の募集は年齢や性別の制限はなく、介護に対する考えや人柄を優先して採用している。採用後は、新人研修やスキルアップ研修、資格取得への挑戦等、職員の質の向上に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	身体拘束、虐待防止の勉強会を通じ人権について理解を深めるように取り組んでいる。見取りを行っている為、その方の尊厳を大事に出来るように情報の共有を行っている。	利用者の人権を守る介護の在り方を、新人研修やミーティングの中で行う勉強会で理解を深め、利用者のこれまでの生活環境や個性に配慮し、言葉遣いや対応に注意して、利用者の方の尊厳を守る介護サービスの提供に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	見取りの後、医師も参加して頂き、振り返りや勉強会を毎回実施し知識を深めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、sw会議や他事業所と相談し情報共有を行いサービスの向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも早く慣れて頂けるように、寄り添いながら傾聴・声かけを行い笑顔が見られる事をめざして、安心して頂ける環境づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新型コロナウイルスにより、面会等に規制あるが、電話や時間予約制の面会時、随時ご家族関わり合いを持ちながら、情報の共有に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、ご家族の尊厳を一番に考えサービス提供に努めるよう、日々連絡を取りながら、ケアプランにもとに支援を行うように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向に添えるよう、できる限りの事はご自身でやって頂けるように働きかける。他入居者の方や職員と共に過ごして頂く時間をつくり、一緒に取り組んで頂ける事など入居者の方が無理をせず、共有できるよう環境づくりに努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、日々の過ごし方を報告しながら、予約制で、制限はあるものの面会等にて対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物を使っていただき、落ちついて生活ができる様にしている。予約制ではあるが面会場所を決め関係が途切れない様努めている。リモートでの面会も行えるよう、準備を行っている。	併設法人内事業所から入居の利用者が多いため、コロナ禍以前は、馴染みの職員が利用者に会いに訪れたり、友人の面会を受け入れていた。現在家族の面会は、面会場所を設定して予約制で短時間で行い、リモートでの面会が行える環境を整えているところである。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と一緒に会話をしたり、座る位置を考えながら気の合う方と話をさせていただく環境をつくるよう努めている。また、孤立しないよう声掛けも行なっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	県外への住み替えなどを検討されておられるご家族への支援、パンフレット等にて紹介情報提供などの支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とゆっくり話せる時間を持ち、少しずつ信頼関係を築きながら希望や思いを聞き、ケアプランに反映し実行できる様努力している。	職員は日々共に過ごす中で、利用者の不安な事、困っていることの把握に努め職員間で共有している。言葉にできない方に対しても、利用者の動向から気づける職員が多く、一人ひとりの「思いや意向」の実現に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に生活歴を聞いたり、ご本人との会話の中で得たことを職員全員で情報を共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースを崩さず、失敗につながらない安心出来る支援を行なう様に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	楽しみとされている事や重視していきたい習慣や声かけの仕方、充実した日々のための介助の方法等、フロアスタッフ全員から意見を集め、ケアプランを作成し、実践しています。	利用者、家族の意見や要望を聞き取り、職員から情報を集めて、担当者会議やモニタリングの中で検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。職員からのアイデアがたくさん提案され、個別の対応に繋げている。また、入退院等、利用者の状態に変化があった時には、その都度見直を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時、フロアに出る前にそれぞれのケース記録に目を通し、勤務中以外の入居者の方の様子を把握している。状態に変化が出た時等は、その都度話し合いを設け周知を行い入居者の方の状態に沿ったケアができるように努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にとってより良い事であるようにサービス内容をミーティング等行い検討している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大予防に努めながら、医師に確認を行いながら、近隣の公園へ散歩やドライブを行った。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご家族・ご本人の希望を重視している。異常の早期発見に努め、かかりつけ医に相談や報告を行いながら連携を図り、適切な医療が受けられるようにしている。	契約時に利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。母体医療機関や隣の診療所との密な連携で安心の医療体制が整っている。夜間や緊急時には、同法人の総合病院の病棟に直接電話で相談する事が可能である。また、入居以前からの馴染みのかかりつけ医受診の希望があれば、医療情報の提供に努め、家族が同行受診できるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日常で変化がみられた時、当施設の看護師、主治医への報告・相談を行い、迅速な対応に努めている。必要であれば緊急受診も行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族・担当医・看護師・ソーシャルワーカーや・ケアマネージャーと退院前カンファレンス等にて連携をとり情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の方ご家族に説明は行いが、重度化がみられた際にその後の方針について、再度話し合いを行っている。他医療機関や施設とも連携を図り、対象の入居者の方が安全に穏やかに過ごせる場所、方法をご案内できるよう支援している。	契約時に、重要事項説明書を基に重度化や終末期に向けた方針について説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、「人生会議」を開いて家族と密に話し合い、利用者や家族の希望を見極めながら、意向に沿った支援に向けて環境整備に努め、看取り支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時また、研修や訓練を定期的に行い、緊急時に備えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害マニュアルを作成し、定期的に事業所内での勉強会を行い、避難訓練も適時行っている。また、消防署の方等のご協力も頂いている。	避難訓練は、日中、夜間を想定して年2回実施している。夜間想定訓練では、2階、3階、4階の利用者を速やかに一時避難場所に誘導する方法を確認している。また、非常災害時における非常食については、食事の委託業者による供給体制が整備されている。	ホームが2階、3階、4階に位置し、夜間はフロアに職員が1名であることから、ホーム独自の夜間想定訓練を繰り返し行い、避難誘導の方法を身につけることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方であること、一人ひとり人格を持っていることを心に留め、敬意を持って自分たち、家族がされたくないような対応を心掛けて業務遂行している。	利用者の人権を守る介護サービスについて、職員間で常に話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応を心掛けている。利用者一人ひとりが「楽しい」と思える事を考えて実現に向けて取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、信頼関係を築きながら、ご本人さんが気を使わず意見を言い、思う事を我慢せずに過ごして頂ける様心掛けている。入浴時の衣類の準備等、日々の生活の中でも自己決定が出来るよう支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人さんの生活リズム、そればかりにとらわれず、ご本人様の体調等見極めながら支援させて頂いている。その日の表情等を考慮しながら、入浴やレクリエーション等の活動を支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容(洗顔・髪とかし)の手助けを行っている。イベント的にネイルケアなども行い、定期的に理美容の訪問がありカットや毛染めをしておしゃれを楽しんでいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員や他入居者の方と一緒に食事準備(盛り付け・お茶入れ)等手伝い、出来る事を楽しんで頂いている入居者の方もいる。また、時折、入居者の方へリクエストを募りお好きなメニューを入居者の方と共に調理し、食事を楽しんで頂けるように働きかけている。	委託業者による食事を提供し、利用者の残存能力に合わせて、一緒に盛り付け等を行っている。行事の際は、手作りの料理やおやつを提供したり、ネパール出身の留学生が郷土料理を振る舞う等、いつもと違う食事を楽しめるよう支援している。また、月1回検食会議で話し合い、料理の改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人ひとりの水分量をチェックし記録している。一人ひとりの好みや量を考え提供している。また、体重の増減がみられた際には、食事摂取量を見直し、個別対応を行っている。誕生会などには、事前に食べたい物を確認し提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者に出来る事をして頂き、それ以外は、介助を行い口腔内の清潔保持を行っている。義歯は職員が消毒を行っている。週1回口腔ケア用品の消毒を行っている。また、必要に応じ、訪問歯科にて指導助言をいただいている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人一人の排泄リズムや排泄サインを把握しながら、状態に合わせて声かけや介助を行っている。	利用者が重度化してもトイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、一人ひとりに合った声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。トイレの位置が分かるように大きく掲示したり、居室にポータブルトイレを設置する等、極力失禁のないように工夫して取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で水分補給を適宜行っている。又、毎朝牛乳を飲用してもらっている。下剤調整だけではなく、体操・運動等行なっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限りご本人の希望に添うように、その方の状態に応じた介助方法を行いながらしているが、日時はある程度決まっている。声かけや雰囲気づくりにて、ゆったりと入浴を楽しんで頂けるように働きかけている。イベントとして入浴剤を使用し入浴を楽しんでもらう支援を行っている。	利用者の希望や体調に合わせて入浴支援し、入浴を楽しみにしている利用者が多いので、時間をかけてゆっくりと入浴が出来るよう取り組んでいる。入浴剤を使用し、入浴を楽しめるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態をみながら休息して頂いている。家事等に参加して頂き、日中活動的に過ごして生活リズムの安定を考慮し、夜、不安感がみられる方は、軽減できる声かけをし安心してもらえるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や薬表はスタッフルームにて保管し内容の把握を行っている。又、症状に変化がある場合は、主治医に報告、相談し指示を仰ぎ、状態に応じた服薬の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴と興味がある事を把握し、身体レベルに応じて、家事等の役割を行ってもらえるよう働きかけている。又、役割をもってもらえる事で張り合いや生きがいを感じてもらえるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、積極的な外出支援は、行えなかった。	コロナ対策以前は、初詣やドライブ、外食等に出かけ、家族と一緒に普段は行けないような所にも出かけ、利用者の気分転換を図っていたが、今年度、外出は難しい状況であった。現在は、人混みを避け、マスクをして手指消毒の徹底を行いながら、少人数ずつ、時々散歩に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて個人のお金をお預かりし、本人の嗜好や必要物品を依頼を受けて購入を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族・御友人から手紙や荷物が届いた際、ご本人の希望にてご家族に電話をかけられている。また、ご本人が不安に感じている際、電話にて話を聞いて頂いたり、年賀状をご家族あてに送り支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下等入居者様の視界に入る所に季節を感じられるよう壁紙や行事、誕生会等の写真を入居者様と一緒に作成し展示している。又、室内の温度調節を行い配慮している。トイレには消臭剤を置き、換気も行い、清潔を保てるようにしている。	9階建てビルの2階3階4階部分にある3ユニットのホームは、窓から金比羅池周辺を歩いている人の姿を見ることができる、明るく開放的な共用空間である。季節に応じた壁紙や利用者の笑顔の写真を飾り、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、ゆっくりTV視聴されたり、新聞を読まれたり、他入居者様とゆっくり過ごせ、楽しくコミュニケーションが図れるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室になじみのある家具や長年使用して身回りの物を配置し、安心して心地良く過ごせるよう環境作りを心がけている。また、ご家族写真や製作品を飾り、個人の空間も大切にしている。	利用者が今まで使用していた物を持ち込んでもらい、馴染みの中で生活することで、安心できるよう配慮している。居室の掃除は、利用者と一緒に出来る範囲で毎日行うようにして、清潔で気持ちよく過ごせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人的・物的環境の把握を行いながら、テーブルやソファ等の家具の配置を検討している。又、居室の入り口には表札や目印になる飾りを付け、トイレ・浴室には看板を付ける等一人一人の身体能力に合わせた対応や工夫を行なっている。		